

「おしゃれ白書 2003」にみる

「美容法・化粧品への関心・期待・安心感」

- ～効果期待度は大きいものの、まだまだ不安な【美容整形】、【プチ整形】
- ～認知度浸透度がイマイチな【ドクターズコスメ】、【アンチエイジング化粧品】、【超高級化粧品】
- ～関心、安心は充分ながら効果で一部留保の【サプリメント】
- ～3拍子そろって高い支持を得たのは、【エステ】

要旨

- ・美容に対するニーズの高まりの中、高度な、あるいは新規な美容法・化粧品の提案がなされてきている。それらについて、関心の有無、期待する効果、安心度を中心に調査解析を行った。
- ・非侵襲的施術である【エステ】については、関心、期待、安心度ともに今回の調査項目中で、最も高い値を示した。試したことのある人の満足度も高く、好ましく受け入れられている。また【サプリメント】も【エステ】とほぼ同レベルの関心と安心度を示したが、効果の期待ではやや低い値であり、試しての満足度も伸びず、過半数が「どちらとも言えない」と微妙な回答になっていた。
- ・侵襲的施術である【美容整形】、【プチ整形】は、効果への期待では【エステ】に迫る高い値を示したが、関心は低く、逆に不安感が極めて高い状態であった。
- ・化粧品領域での【ドクターズコスメ】、【アンチエイジング化粧品】、【超高級化粧品】については、関心、安心度については中等度、効果への期待では下位グループを形成していた。試したことのある人の満足度はいずれも50%を超えているのに対して、全体では3者とも効果および安心度に関して、「わからない」の回答が50%以上あり、これら化粧品の効果効能、安全性情報の浸透度の低さが窺われる。
- ・【自分の顔】が好きでない人は、【美容整形】、【プチ整形】に高い関心と期待を寄せており、好きな人と好対照を示した。【自分は魅力的】と思う人は、【美容整形】、【プチ整形】以外の美容法化粧品に関心と期待を表明しており、それらに寄せる安心度も高く、肌や身体の手入れに関して好奇心の旺盛さを示している。
- ・年代別に、受けてみたい美容整形・施術について訊いたところ、メスを入れて容貌を変えたり、脂肪吸引で瘦身的に容姿を変えることを若年層で望んでおり、加齢による肌の悩みへの対策を高齢者側で望んでいることが、明らかになった。
- ・整形・施術後の化粧や化粧品への考え方の変化については、より熱心に化粧を行い、化粧品の効果比較にも傾注する、との回答を得た。術後の容貌を維持しさらに磨きをかける為に、化粧行為および化粧品の選択に、より一層の精力を傾ける意向が現れた。

2004/01/23

ポーラ文化研究所

(担当：小松秀雄)

・ 目的

美容整形、プチ整形という言葉は、最近とみに、テレビ、雑誌に見られるようになってきた。劇的なあるいはワンポイントの容貌変化、外科的手術あるいは簡便な施術、可逆的あるいは不可逆的变化、安全性、価格、等々の話題が膨らんでいる。また、エステやサプリメントといった、従来の化粧品による手入れとは異なった肌のケアもマスコミを賑わせている。さらに化粧品領域においても、ドクターズコスメ、アンチエイジング化粧品、超高級クリームといった、高機能を標榜する化粧品も輩出してきている。本レポートでは、これら美容法・化粧品に関する現代女性の意識を明らかにする。

・ 調査概要

「おしゃれ白書」はポーラ文化研究所が1991年より、女性のおしゃれや化粧、生活について、その意識・行動を、3年毎に継続的に調査しているものである。今回の調査概要は、以下の通りである。

調査対象 首都圏 30km 圏内
調査対象者 上記エリア内に居住する 15 歳から 64 歳までの女性 910 人

サンプルデザイン (単位: 人)

15 - 18 歳	(高 校 生)	70
19 - 23 歳	(学 生)	70
19 - 23 歳	(社 会 人)	70
24 - 29 歳	(未 婚)	70
24 - 29 歳	(既 婚)	70
30 - 34 歳	(未 婚)	70
30 - 34 歳	(既 婚)	70
35 - 39 歳		70
40 - 44 歳		70
45 - 49 歳		70
50 - 54 歳		70
55 - 59 歳		70
60 - 64 歳		70

調査対象者抽出法 エリアサンプリング方式
調査方法 個別訪問面接聴取法、及び、留置き法の併用
調査期間 2003 年 6 月

美容法・化粧品については以下のように説明したうえで、回答を頂いた。

美容整形 : メスを入れ、変化させたら元に戻らない本格的な美容外科手術。劇的に容貌を変えることができる。(まぶたを縫い合わせるタイプの二重まぶた手術や鼻にシリコンを入れて高くする手術、しわを引き上げるリフティング等は美容整形です。)

プチ整形 : メスを使わず、時間の経過とともに元に戻る簡単な手術。受けた直後まぶたの容貌が変わる。(コラーゲン注入やレーザー除去によるシミ取りはプチ整形に入ります。)

エステティック : 主に専門のエステティックサロンで行われる美容サービス。最近百貨店のカウンターやセルフサービスのエステコーナーも増えている。文中ではエステと表記。

ドクターズコスメ : 医師が開発した化粧品。エステやクリニックでプチ整形等をした後のケアに使われていたが、最近は、一般化粧品と同じように日常ケアに使われるものが増えてきた。

超高級クリーム : 効果の高さを特徴にしている 3 万円以上のクリーム。

アンチエイジング化粧品 : 肌の老化を予防する化粧品。しみ・しわの改善や肌のハリを取り戻す等の様々な効果をうたっている。

サプリメント : 身体の内側から肌を美しくすることを目的とした健康補助食品やビタミン剤のこと。

・美容法・化粧品への関心・期待・安心

1.関心

美容法・化粧品への関心を「かなり関心あり」と「やや関心あり」との合計値で見ると、【エステ】62%、【サプリメント】58%への関心が非常に高く、【ドクターズコスメ】30%以下は関心の度合いでは大きな落差があることが示された。【美容整形】は19%に止まった。逆に、「余り関心ない」、「全く関心ない」の合計で見ると、【プチ整形】60%、【美容整形】67%と、過半数以上の人に関心を寄せていないことが示された（図1）。

図1

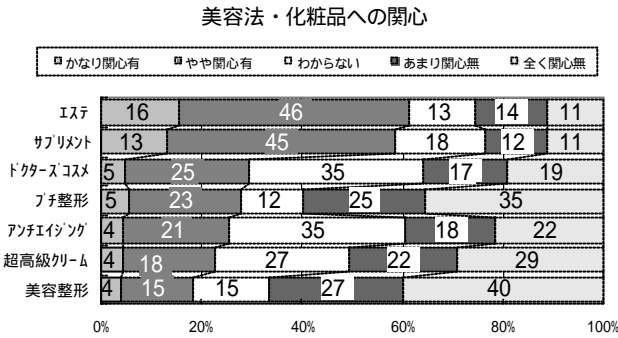
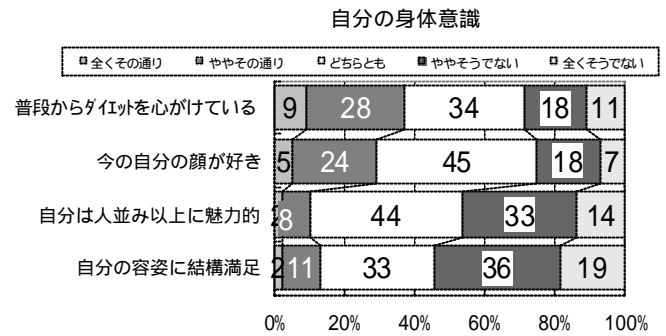
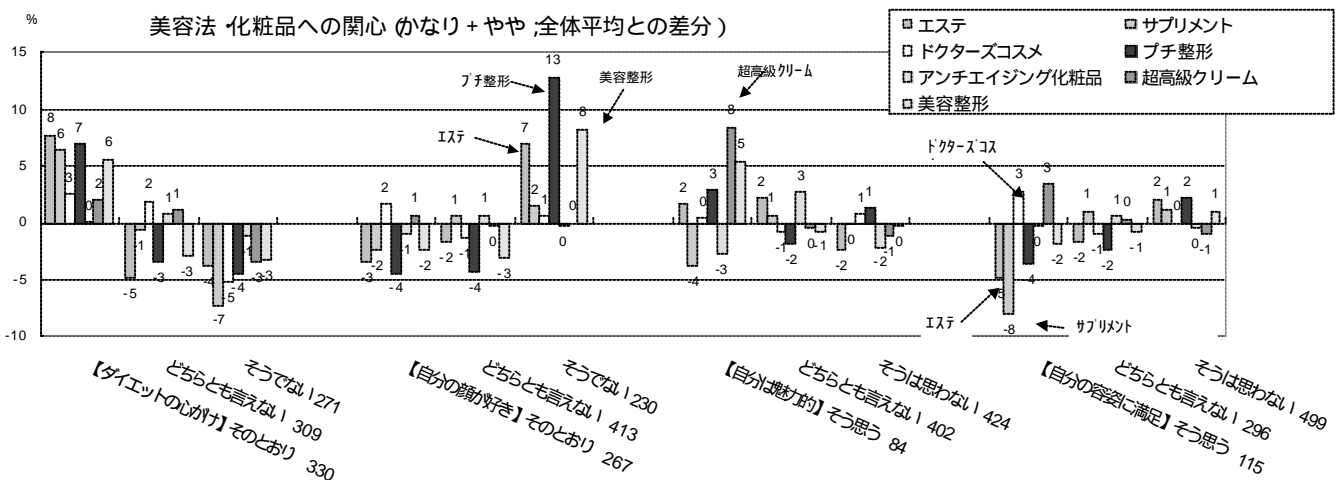


図2



美容法・化粧品への関心が、自身の身体意識の違いによってどの程度影響を受けるかについて検討を行った。【普段からダイエットを心がけている】【今の自分の顔が好き】【自分は人並み以上に魅力的】【自分の容姿に結構満足】について集計した（図2）。その結果を、（全くその通り+ややその通り）（どちらとも）（ややそうでない+全くそうでない）の3群に分けて解析を行った。図3は、これら各身体意識の人たちが、美容法・化粧品に「かなり関心あり+やや関心あり」と答えた割合から図1の全体平均値から引いた差分をグラフ化したものである。プラス側に出れば平均よりも関心が高く、マイナス側に出れば平均よりも関心が低いことを表している。その結果、【ダイエット】を心がけている人は7種類の美容法・化粧品に多寡はあるもののいずれも平均以上の関心を寄せているのに対し、心がけていない人は全く正反対の傾向を示した。【自分の顔】が好きでない人は、【エステ】【プチ整形】【美容整形】に平均よりも際立って高い関心を寄せた。【自分は魅力的】と思う人は、【超高級クリーム】が高く、【美容整形】【プチ整形】【エステ】にも若干高い関心を寄せていた。【自分の容姿に満足】している人は、【サプリメント】【エステ】への関心が低く、【ドクターズコスメ】、【超高級クリーム】にわずかに高い関心を示していた。

図3



2.効果の期待

美容法・化粧品の効果への期待を見ると、ここでも【エステ】がトップを占めているが、次いで【プチ整形】【美容整形】が続いており、施術による整形で得られる効果への期待が大きいことが示されている。一方、3種類の化粧品に寄せる効果期待は下位に集まっており、さらに「わからない」が50%以上もあって、まだまだ訴求効果に対する浸透度が低いことが窺われる（図4）。

具体的に肌の症状を提示した場合に、効果の期待を比較すると図5のようになる。「シミ」に対しては3者に回答が分散したが、「シワ」、「タルミ」には【プチ整形】が、「角質除去」には【ドクターズコスメ】と【超高級クリーム】が選ばれる傾向が認められた。具体的な症状によって、選び取る、あるいは想起する美容法・化粧品がまちまちであることが示されている。

図4

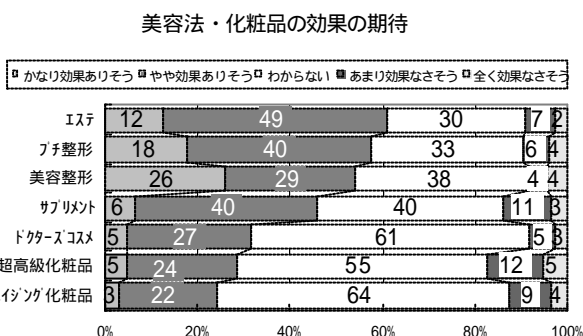
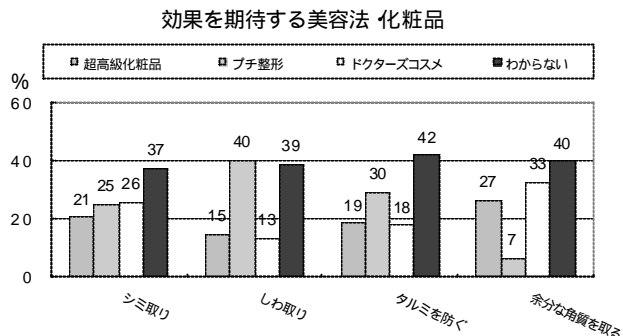


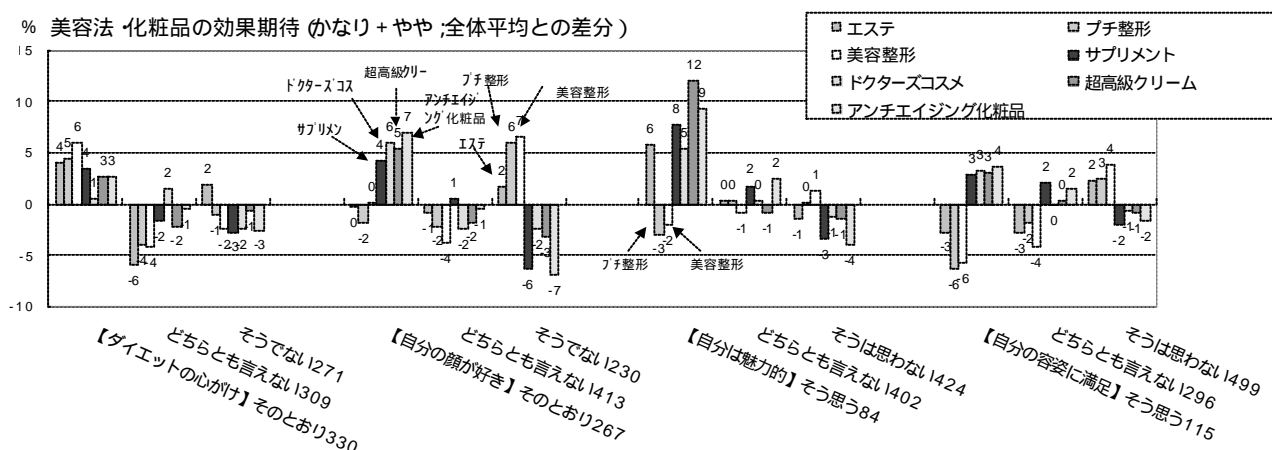
図5



身体意識別に効果期待の大小を比較すると、【ダイエットの心がけ】の群では関心度と同様のパターンであった。【自分の顔】が好きな人は、【ドクターズコスメ】【超高級クリーム】【アンチエイジング化粧品】の化粧品3種に効果を高く期待し、また【サプリメント】にも効果期待を表している。対照的に【自分の顔】が好きでない人は、好きな人が平均的な期待値を示している【美容整形】【プチ整形】に高い期待を寄せており、また【エステ】にも若干高い期待を見せている。【自分は魅力的】と思う人は、【プチ整形】【美容整形】への期待が平均より低く、その一方で、それ以外の非侵襲的な美容法・化粧品に高い期待を寄せている。【容姿に満足】している人は、【プチ整形】【美容整形】への期待が更に低く、また【エステ】への期待も低い（図6）。

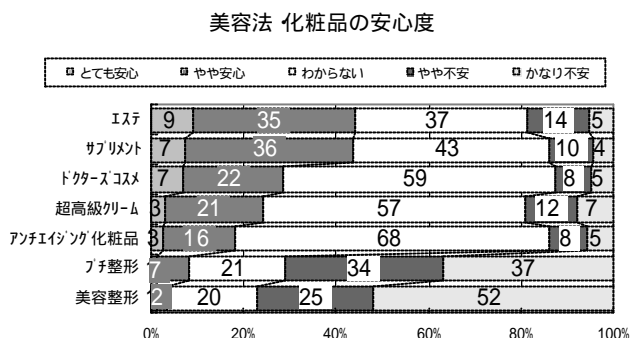
3.安心度

図6 % 美容法・化粧品の効果期待 (かなり+やや; 全体平均との差分)



美容法・化粧品への安心度を見ると、関心度、効果期待の前2者に比べて、全般に肯定的回答が減少しており、安心感に介しては厳しい見方をしていることが示されている。特に【プチ整形】【美容整形】については、それぞれ8%、3%の支持に対して、不安を表明した割合が、71%、77%と、まだまだ身体にメスを入れることへの逡巡が窺われる。また、ここでも化粧品3種類について、「わからない」が半数以上を占め、浸透度の低さを示している（図7）。

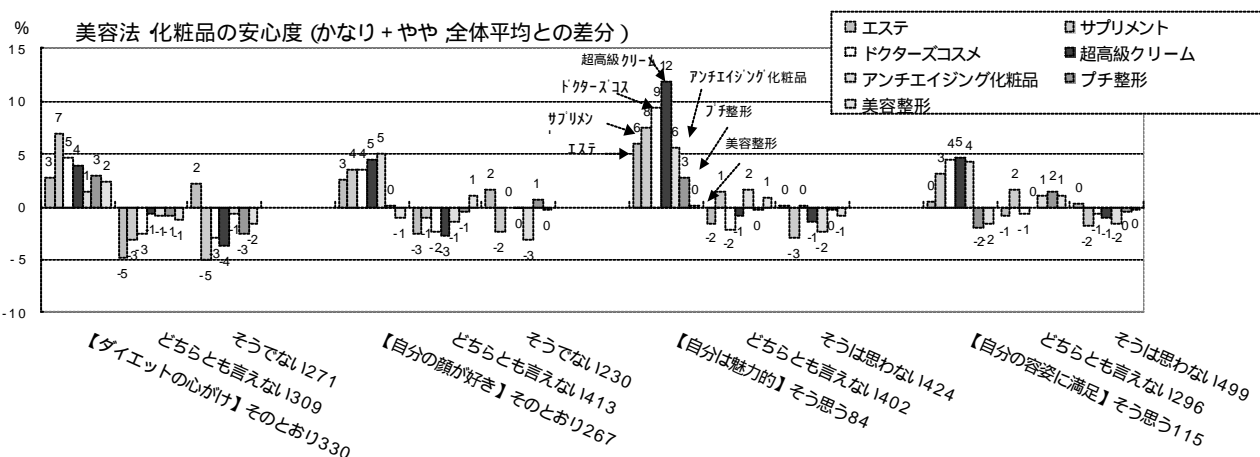
図 7



身体意識別に見てみると、ここでも【ダイエット】群は、関心度、効果期待と類似のパターンを示していた。【自分は魅力的】と思う人は、全てにわたって平均を上回っており、安心面からの躊躇が相対的に低いものと思われる。【自分の顔が好き】な人、【容姿に満足】している人は若干安心度に関して好意的ではあるが、【どちらとも】【そうでない】群はいずれも平均値前後で、大きく突出したものは無かった。概して、身体意識に関して肯定的な人は、安心度も高めではあるが、【自分は魅力的】と思う人を除いて、美容法・化粧品に対するバリエーションが特段に低い訳ではないことが窺われる（図 8）。

関心・効果期待・安心度を通してしてみると、【そう思う】と【そう思わない】とで対照的なパターンを見せていた。【そう思う】人が概して【美容整形】と【プチ整形】以外の美容法化粧品に効果期待と安心度を示していたのに対し、【自分の顔が好きでない】人は、【美容整形】と【プチ整形】に高い関心と期待を寄せていた。【自分は魅力的】と思う人は化粧品や身体の手入れに対して好奇心旺盛な性行が窺われた。

図 8



4. 試しての満足度

実際に試したことのある美容法・化粧品について訊ねると、【サプリメント】58.8%をトップに【エステ】23.5%が続いているが、【プチ整形】、【美容整形】の経験者はそれぞれ0.9%、0.4%と極めて低い結果であり、両グループに挟まれて、【超高級クリーム】、【アンチエイジング化粧品】、【ドクターズコスメ】の化粧品群が分布していた（図 9）。美容法・化粧品を試しての満足度は、ここでも【エステ】が65%でトップを占めている。母数が極めて少ないが、【プチ整形】では8名中5名、【美容整形】では4名中2名が満足と答えていた。3種類の化粧品を実際に試しての満足度は、いずれも50%以上の人から満足の表明が得られていた。一方、【サプリメント】は、535名（全体の59%）と試した人は最も多かったが、満足度は35%と低かった。関心はあり、安心でもあるが、実際に試した実感としては、数字が伸びなかった、という結果に終わっている（図 10）。

図 9

試したことのある美容法・化粧品

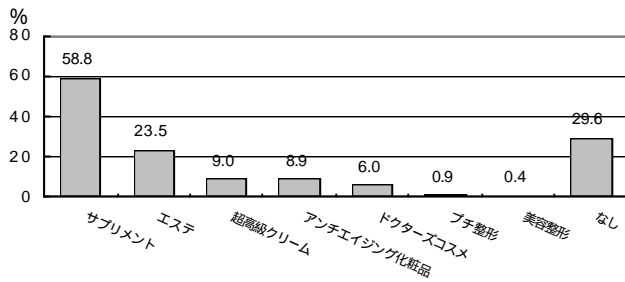
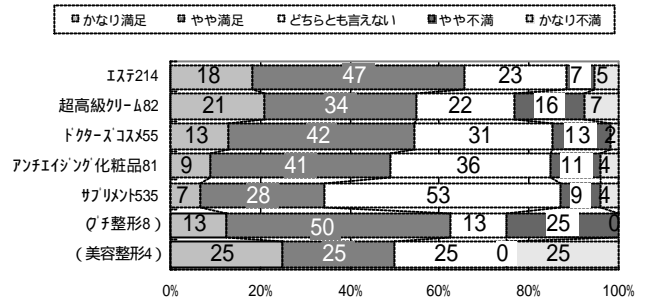


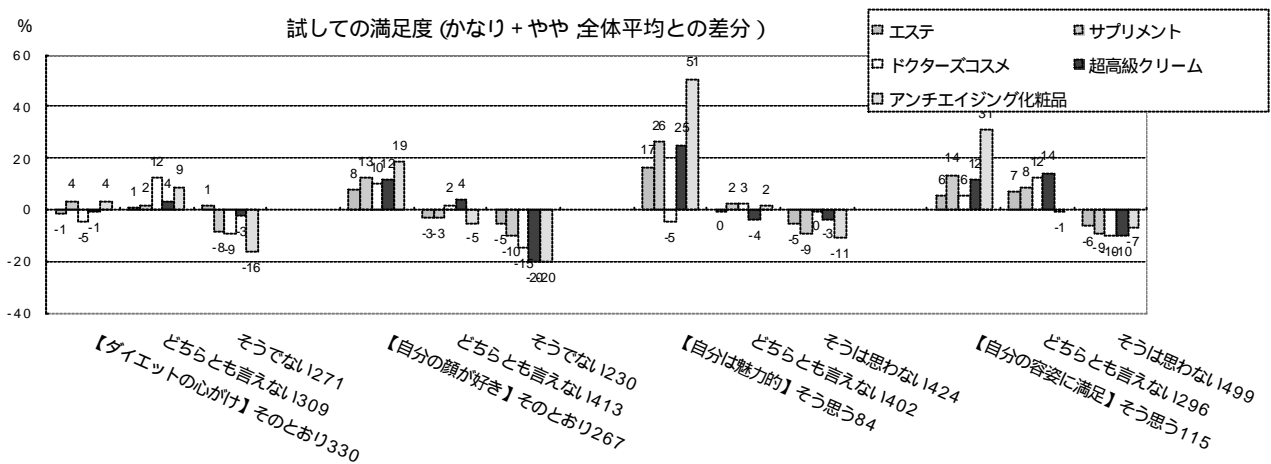
図 10

美容法・化粧品を試しての満足度



身体意識別に満足度を見ると、【そう思わない】群で、ほぼ全ての美容法化粧品で満足度が平均を下回っており、逆に【そう思う】群は一部を除きほぼ平均を上回っていた（【美容整形】と【プチ整形】は例数が少ないため除外）。身体意識に対して肯定的な人が満足度がより高く、否定的な人では満足度が低い傾向が認められた（図 11）。

図 11



5. 美容法・化粧品 vs 化粧品は【習慣として使うもの】か【美しさへの必需品】か

日常の化粧品に対する意識の違いによって、これら7種類に美容法・化粧品への対応が異なるか否かについて検討した。「化粧品とは？」と訊いて、【習慣として使うもの】(246名)【美しさへの必需品】(183名)と回答した2群を取り上げ、7種類の美容法・化粧品への関心度・効果期待・安心度について、「かなりそう思う」+「ややそう思う」の値で比較した（図 12～14）。

図 12

美容法・化粧品への効果期待（かなり+やや期待）vs 化粧品とは？

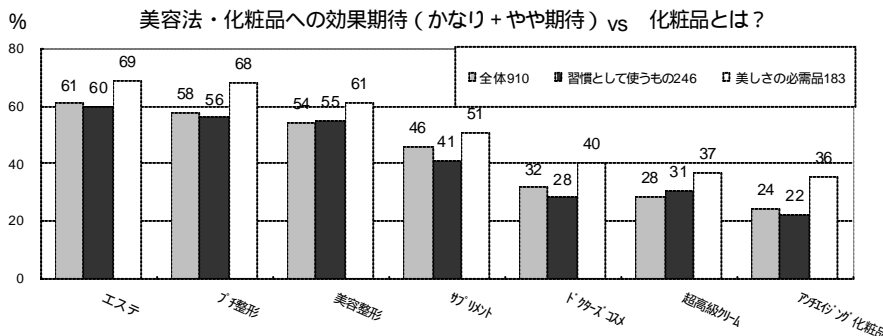


図 13

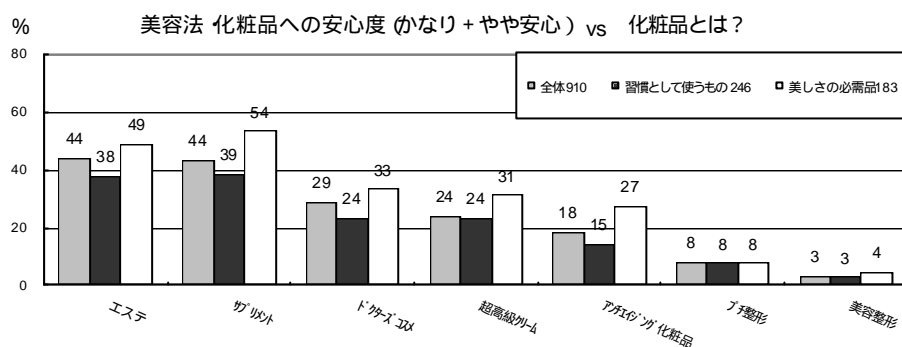
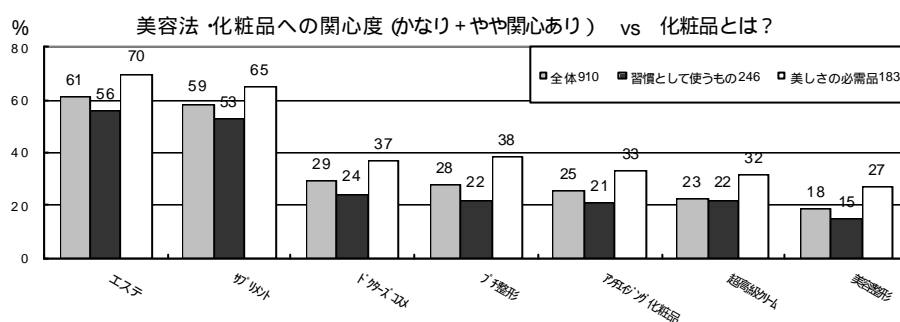


図 14



【美しさの必需品】と答えた人は、7種類的美容法・化粧品全てに対して平均より高い関心を示し、また、効果期待に関しても全て平均を上回っており、美容法・化粧品に対して肯定的な意向を見せていた。安心度に関しても、平均を上回る数値を示しているが、【プチ整形】【美容整形】だけは、極めて低い数値のままで、関心・期待の高さにもかかわらず、不安感が拭えないことを示している。【習慣として使うもの】と答えた人は、効果期待に関してはほぼ平均値付近に位置していたが、関心度は全て平均を下回り、また安心度でも平均値ないしそれ以下であり、ここで示した美容法・化粧品に対してやや消極的な姿勢が認められた。日常の化粧意識が、これらの美容法・化粧品に対してもそのまま反映された結果となっていた。

・受けてみたい美容整形・施術についての年代別傾向 (2000年との比較)

受けてみたい美容整形・施術について次の7項目を挙げて、得られた回答を集計した (印いくつでも)。

1. レーザー光線で、シミ・ソバカスをとる
2. 脂肪吸引などによる痩身や体形修整
3. 目の下のたるみやシワの除去による若返り手術
4. 二重まぶた作りなどの切開による手術
5. コラーゲン・ヒアルロン酸などを注入して若々しく見せる
6. ケミカル・ピーリングなどによる若返り施術
7. シリコン等を入れて鼻を高くしたりあごを出したりなど形を変える手術

2000年度の調査と比較してみると、平均回答数で1.0件から1.4件と増加しており、各年代、特に60代での回答数の増加が目立っていた (図 15)。各項目ごとに見ても、それぞれに前回調査を上回っており、「なし」が大きく減少して、徐々に関心を集めつつあることを示している。今回、全体としては、レーザー治療、脂肪吸引が高値を呈しており、隆鼻術以外の項目が14~15%で続いていた (図 16)。

図 15

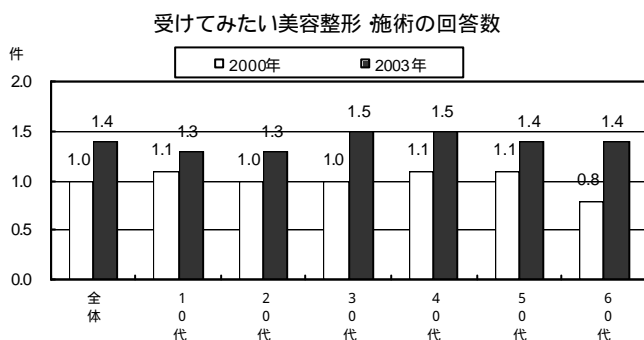
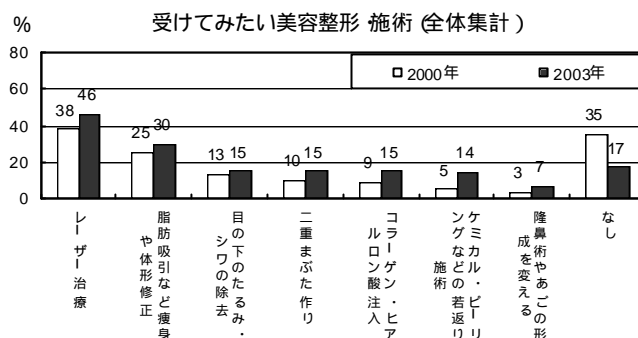


図 16



年齢別に見てみると、レーザー治療については10代以外で、前回より増加し、かつ高い値を示しており、シミ・色素の対する関心の高さを示している。シワ・たるみに対しては40代から60代に向けて急速に高まっており、コラーゲン・ヒアルロン酸も40代、60代が高く、これらの肌の悩みに対して高齢者側で強く反応していることが示されている。ケミカル・ピーリングは30代に小さなピークを持つが、40代以降では「剥がす」よりはコラーゲン・ヒアルロン酸を「注入する」方が人気は高い。顔にメスを入れる、二重まぶた、隆鼻術の2項目は、10代が高く、20代がそれに続くが、高齢者側では極めて低い。脂肪吸引は各年代で一定の数字を得ているが、10代で特異的に高い。これは、肥満への外科的対策というよりは、若年層の痩身願望の現れと見て取れる。メスを入れて容貌を変える、脂肪吸引で瘦身的に容姿を変えることは、若年層で期待度が大きく、加齢による肌の悩みへの対策には高齢者側で強く反応していると言える(図17~22)。

図 17

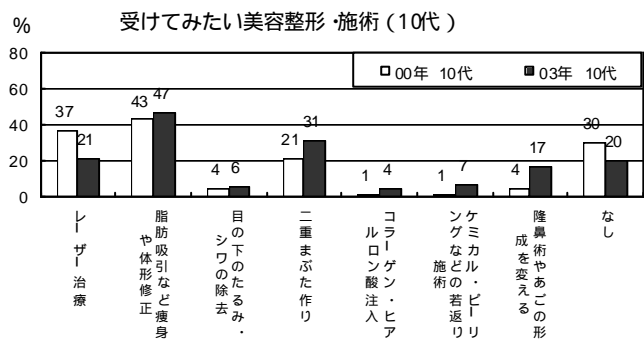


図 18

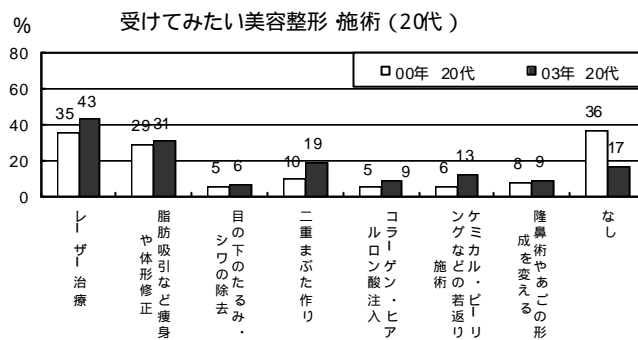


図 19

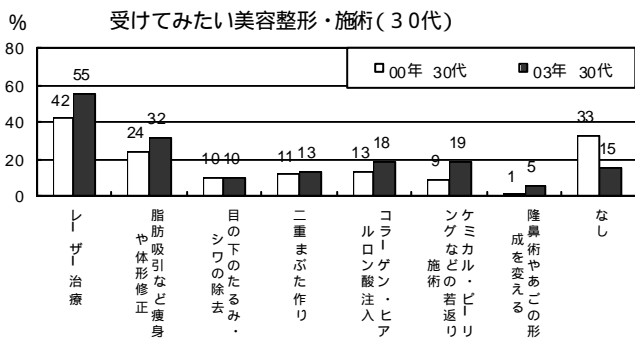


図 20

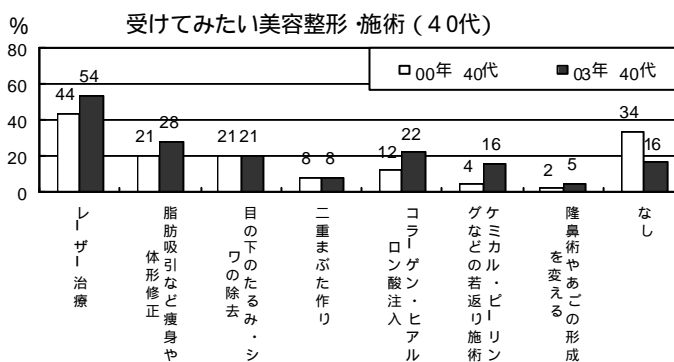


図 21

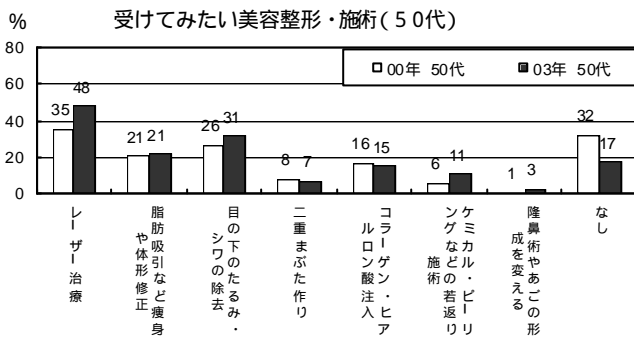
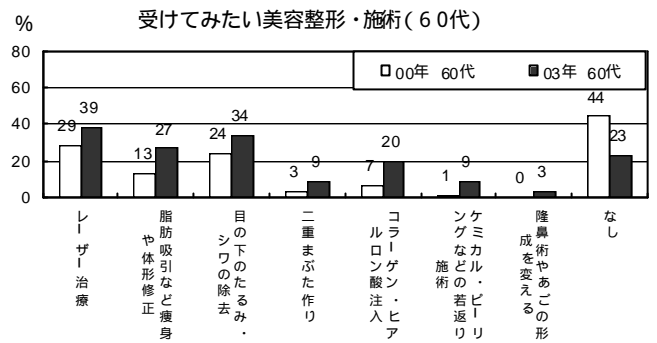


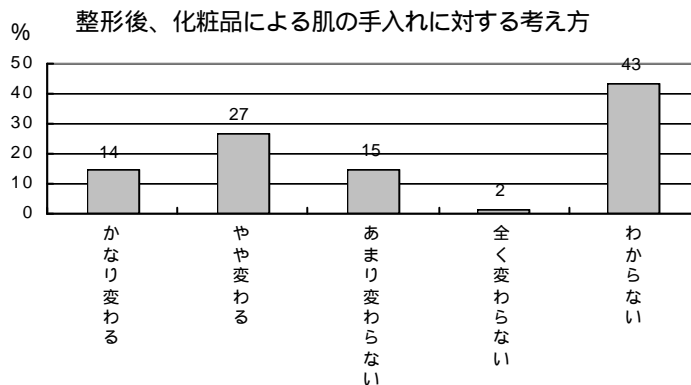
図 22



・美容整形後の化粧意識・化粧品への考え方の変化

これまで見てきたように、施術に対する不安は大きいものの、美容整形への期待も劣らず大きい。では、もし美容整形を行ったとしたら、その後の化粧品による肌の手入れに対する考え方はどのようになるのであろうか。その質問に対して、図 23 によれば、「かなり変わる」と「やや変わる」を合わせると41%の人が、考え方が変わる、と答えていた。

図 23



どのように変わるか、についてこの41%の人に訊いたところ、化粧行動については、スキンケア、メイクアップともに80%以上の方が、以前よりもより熱心に手入れをする、と答えている(図 24)。美容整形の施術によって獲得した顔あるいは肌の状態を日常的にケアし、あるいはより魅力的に見せるために、スキンケア、メイクアップに以前にも増して励むようになる、との意向である。施術で期待どおりの効果が得られれば、化粧行動には手を抜いてよい、という方向へは発想されていない。

美容整形に踏み切ったとしても、化粧品そのものに対する信頼性は、23%が変わらない、37%が信頼性が増す、と答えている。ただし、用いる化粧品の効果については、60%の人がよりしっかりと比較検討すると言っており、期待する化粧品効果に対して、より厳しい目で商品選択に臨むことが表明されている(図 25)。

図 24

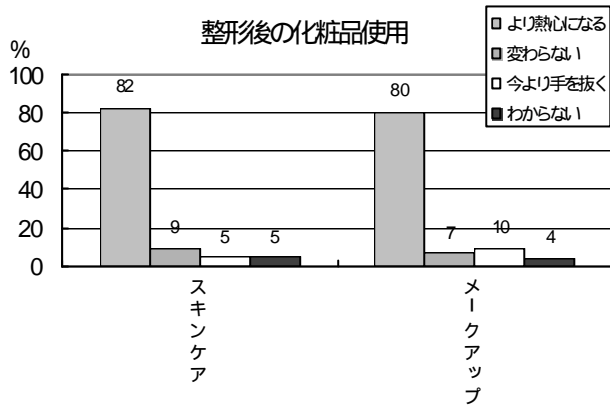
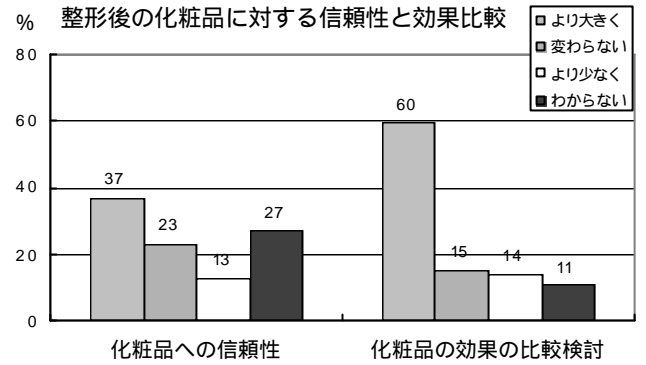


図 25



・ 結語

- ・ 関心、期待、安心度の面で【エステ】が最も高く評価された。【サプリメント】は、効果の期待、試しての満足度で【エステ】には及ばなかった。化粧品領域での【ドクターズコスメ】【アンチエイジング化粧品】【超高級化粧品】については、化粧品の効果効能、安全性情報の浸透度がまだ充分でないことが窺われる。
- ・ 侵襲的施術である【美容整形】【プチ整形】は、効果への期待では【エステ】に迫る高い値を示したが、まだまだ不安感が極めて高い状態であった。
- ・ 【美容整形】【プチ整形】が広まることによって一般の化粧品が駆逐されるというよりは、より熱心に化粧を行い、化粧品の効果比較にも傾注するであろう、との回答を得た。術後の容貌を維持しさらに磨きをかけることを目指して、化粧行為および化粧品の選択に、より一層の精力を傾ける意向が現れた。